

令和8年度学校経営方針

【白梅学びのエリアの教育目標】 加賀中学校・加賀小学校・金沢小学校

喜びを力にして成長できる子ども

～「学ぶ喜び、成長する喜び、人とつながる喜び」を感じあえる学びのエリアをめざして～

【白梅学びのエリア共通子ども像】

- 自ら学び、考え、表現し、学ぶことやわかることの楽しさに喜びを感じる子
- 自他を大切にし、共に支え合い、思いやりをもって成長することに喜びを感じる子
- 自分を支える多くの人とつながり合って、地域を愛し、地域を大切にすることに喜びを感じる子

【金沢小の教育目標】

- か し こ く 【知】 進んで学習し、自分の考えをもち、創意工夫して実践する子ども
- や さ し く 【徳】 相手の気持ちを考え、よりよい人間関係を育む子ども
- たくましく 【体】 健やかな体と心をもち、めあてにむかってねばり強くはげむ子ども

目指す学校像

「千人万色、多様な学びと育ちを学校、家庭、あいキッズ、地域で支える小学校」

—多様な学び方、多様な支援・指導により、子どものよさを引き出し、伸ばす—

私たちが生きる今は変化が早く、将来の予測が困難とされています。さらにはIT技術の急進により様々な情報を国や地域の垣根も真偽もなく、容易に手に入れることができるほか、外国人人口の増加などによりグローバル化や価値観の多様化が一層進んでいます。

学校教育においては、一人一台端末の貸与をはじめインターネットインフラの整備により、いつでもどこでも学びにアクセスできるほか、2020年から外国語（5・6年）、外国語活動（3・4年）が授業になるなど、時代の変化に迅速に対応しています。

学校教育も大きく変化をする中、旧来からある学力差ばかりでなく、外国にルーツをもつ児童や特別な配慮を要する児童の増加も相まって、教師は多様な学びの授業、子どもは自分なりの学び方の習得とよりよい表現が求められています。

1,000名近くの子どもたちが在籍する金沢小学校では、当然ながら子ども一人一人の考え方も感じ方も、そして心模様もカラフルです。輝いている、透き通っている、それぞれの色同士がきれいに調和している時もあれば逆の時もあります。そして、その色は日々、同じではありません。

そのように多様な子どもたちの心と学びを大切にする意を込めて「十人十色」と「千差万別」を組み合わせた「千人万色」を表しました。この標語を念頭に、子ども一人一人が自分の色（自分らしさ）を生かした絵（学び）を描くことができるよう、学校、家庭、あいキッズ、地域で連携をし、協働前進していきます。

この連携により「コミュニティ School KANAZAWA」を創造し「MIRAI School いたばし[※]」の実現へ向かって行きます。

※MIRAI SCHOOL いたばし 教育ビジョン2035-(令和8年3月)より

○誰一人取り残さない学びの保障(心と体の高い安全性の基盤づくり)

- ・子どもの心の声に耳を傾け、子どもを深く理解する。(即時、聞き取りと心のケア)
- ・様々な状況にある児童に対する校内外における居場所づくりと、保護者との連携を図る。
- ・人とのよい関わりの経験・体験を大切に作る。
- ・子どもの不安や困りごとを言語化するチャンスを作る。(S.O.S. の出し方)
- ・保護者会や個別面談、学校公開時など保護者来校の機会や学校便りを通じて、教育活動、家庭教育等について家庭との共通理解と連携を強化する。
- ・学校教職員が一丸となって組織的に教育活動を進め、子どもの成長を保護者・地域・あいキッズ職員と共に喜び合える協働を創造する。

1 教育目標に対する重点

○やさしく「相手の気持ちを考え、よりよい人間関係を育む子ども」の育成に向けて

- ・快いあいさつの定着に向け、大人が垂範するとともに、加賀中学校と連携した「小中合同あいさつ運動」を各学期に設けて、あいさつ習慣の獲得を図る。
- ・日々の生活指導及び道徳教育を要として、子どもの規範意識、相手意識を高めます。
- ・児童同士の心の交流、ふれあいを大切にした授業内外での交流と地域における園児、高齢者等との交流を図ります。

○かしく「進んで学習し、自分の考えをもち、創意工夫して実践する子ども」の育成に向けて

- ・学力向上週間における集中的な学びにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・板橋区授業スタンダードを基に研究開発した一単位時間の基本スタイル(主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの一つのモデル)を取り入れ、年齢に応じた児童の思考・判断・表現の向上を図る。
- ・上記に加え「板橋区授業スタンダードS」(Select(セレクト選ぶ・選択する)、Self(自分で・自ら))を効果的に取り入れた個別最適な学びを推進する。
- ・教科書の内容を的確に読み解くことを基本に、自分に必要で正しい情報を自ら得る技能と、得た情報を自分の言葉で表現する力を身に付けさせる。
- ・自分も相手も納得のある納得解を見出したり、状況に応じてよりよく改善していったりするための言語活動を活性化させる対話的な学習を進め、自力解決・集団解決の方途を経験的に身に付けさせる。
- ・一人一台端末(クロームブック)を授業、家庭学習に効果的に取り入れ、子どもが学習ツールとして適切な活用ができるよう、活用方法・ルール作りを児童・生徒会活動で創造する。

○たくましく「健やかな体と心をもち、めあてにむかってねばり強くはげむ子ども」の育成に向けて

- ・感染症防止につながる衛生指導と学習、早寝・早起き・朝ご飯等の指導を、日常を通じて行うとともに、保健の授業及び保健指導を通じて健康教育を進める。
- ・自己の体力に応じて課題を設定し、仲間と共に楽しむ体育及び体育的活動の充実を図る。(フリータイム遊び、ロープジャンプ記録週間 など)
- ・転倒の防止や転倒時の骨折・顔面外傷等の回避を図るため、体育の授業において体を上肢で支えたり、膝を曲げた低い姿勢になったりする運動を年間を通じて取り入れる。
- ・運動が得意ではない児童も自分のめあてをもって取り組んだり、スポーツの場面に間接的に関わったりすることで、自分がつ良さをスポーツの場面に生かし、自己効力感をもたせたりねばり強さを養う。(学校 2020 レガシー)

2 その他の教育活動の推進・充実

○給食指導・食育の充実と食物アレルギー事故防止の取組を徹底

- ・食育全体計画に基づき食育を推進し、残菜を減らす。（新設）
- ・給食準備時にはマスクを付け、衛生指導と共に食事のマナーを身に付けさせる。
- ・年度当初に職員のアレルギーに関する研修を実施するとともに、教職員間、保護者との連絡を確実にし、食物アレルギー事故を防止する。

○地域、家庭と連携した安全管理・安全教育の推進（新設）

- ・毎月、避難訓練を実施し、避難行動の定着と自助・共助の意識を養う。
- ・警察と連携した交通安全、不審者対応訓練、防犯教育等を行う。
- ・消防及び消防団や地域自治会と連携した防災・火災防止教育を行う。
例) 消防写生会、消火器使用体験、地震体験など。
- ・一人一台端末等を含めた情報通信機器の適切な活用を図るため、家庭と共通理解を図りながらネット安全の指導・管理を図る。
- ・1年生からの一人一台端末導入を通じた、端末や情報の適切な扱いを指導する。
- ・一人一台端末の管理(貸与)、活用に関する保護者への啓発を学期に1回発信する。
- ・クラスルームのチャット機能を通じた、望ましいデジタルコミュニケーションの感覚や技能について、失敗を含めて体験的に指導していく。
- ・4年生以上は毎年、保護者を含めたSNS・ネット・防犯教室を実施するとともに、児童代表委員会が中学校生徒会と連携して、いじめ防止やSNSの使用等についての「学びのエリア共同宣言」の作成をめざす。
- ・不審者対応、対策について保護者来校時のネームプレートの着用の徹底を周知するとともに、学校公開時にはPTA、地域と連携して対策にあたる。

○基本的な学校生活習慣、自立・自律した学習者の育成

- ・基本的な学校生活習慣を記した「金沢小のやくそく」を基本として、挨拶・返事・身だしなみ・言葉遣い・姿勢・物の管理が身につくよう、家庭と連携して子どもの自立と自律を育てる。
- ・ノーチャイムの学校生活を継続し、静かな落ち着いた環境の中で、先を見通して判断する力や自主的に行動する力を高める。

○読書活動の充実

- ・図書室を新校舎1階に移転し、あいキッズでも読書や学習で活用できるようにし、読書量を増やす。
- ・図書室内に所蔵しきれない図書をワーク等に配架・学級文庫にし、学期1回程度、蔵書を更新する。
- ・図書ボランティアと協力して、積極的に読書活動を推進する。

○学校の特色を生かした教育活動の推進

- ・「学校の森」「ビオトープ」「芝生」「緑のカーテン」「畑」を生かした環境教育を進めます。
- ・地域の公園や公共施設と連携した教育活動を行います。
- ・JRC（青少年赤十字）活動を引き続き全校で実施する。

3 地域との連携

(1)金沢小学校コミュニティ・スクール委員会(CS 委員会)

CS 委員会は、学校運営に必要な支援に関する協議を行うため、区立小中学校に設置している会議体で、特に学校が抱えている課題に対して“熟議”を活用して保護者や地域の方が学校とは違う視点で具体的な解決策等について議論し合い、「魅力ある学校づくり」をめざす。

<委員会委員>

委員長 (加賀五四自治会長)
委員 (仲宿睦町会役員) (本校元校長) (東京家政大学教授) (加賀保育園長)
(地域コーディネーター、元PTA会長) (おやじの会・金沢くらぶ会長)
(PTA会長) (加賀中学校長) (あいキッズ代表者)

※オブザーバーとして、地域コーディネーターが出席

(2)PTAや地域との連携

- ・保護者の方とともに学校教育を進めるために、保護者の方が関わりやすいように、学校行事やPTAの活動方法を改善する。
- ・PTA活動・金沢くらぶ・グリーンキーパーズ、おやじの会、読み聞かせの会や図書室ボランティア、学習支援ボランティアなど保護者や町会・自治会・近隣大学など地域と連携した多様な活動を推進する。
- ・郷土愛の育成と地域の活性化や防災対策の充実を目指して、連携の強化を図ります。
- ・教育活動等を学校だよりやHP等で発信し、保護者の方が学校の状況が分かるようにする。
- ・スクールガードや登校見守り委員、下校見守りパトロール委員、PTA、警察と連携して、登校の安全体制を確保する。(再掲)
- ・警察、消防等と連携して交通安全、セーフティ教室、防犯教育、防災教育を充実する。(再掲)

(3)時代に応じた教職員の働き甲斐の向上と人材育成、地域人材の活用

- ・地域人材やボランティア等の積極的な活用により、教師が担うべき職務へ専念できるようにする。
- ・職員室内の良好なコミュニケーション風土を大切にし、OJTを活性化する。
- ・教職員の家庭状況等を鑑みたライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ・定時退勤日の設定や教育DXの推進により業務改善を図り、超過勤務時間を縮減する。